# 人口人口 43

芝浦工業大学客員教授
谷口博昭

## パラダイムシフトと多様な道の活用

新型コロナウイルス感染対策は長丁場の取り組みだが、感染の全体像と収束の出口戦略を示すことが必要です。当面生活や雇用・事業の立て直しが急務ですが、今後の生活経済社会の在るべき姿を描き共有することが肝要です。今回露呈した課題を検討しパラダイムシフトすること及び多様な道の活用を祈念し、以下に2点述べます。

まず〝集中から分散へ〟。コロナ感染は人口集中の大都市の脆弱性を顕在させた。IT（情報技術）の活用によるテレワークやサテライトオフィスの進展により地方の居住と大都市に在る企業への就職の両立が可能となってきています。〝国土の均衡ある発展〟を再評価し、過度な大都市への人口集中を緩和し、地方への分散を図る「国土強靭化」の加速が求められる。

と共に街道の文化で培われた歴史・文化を生かし地方の特色ある自立的発展を促す「地方創生」の強化が求められる。地方創生の拠点としての道の駅の活用と〝点から線へ〟の展開を促進する日本風景街道の活用を期待したい。

次に〝生活経済社会を支える下部構造の強化〟です。コロナ感染で医療現場の他、オンライン学習や各種給付・助成担当窓口の脆弱性が露呈した。財政再建至上主義による人員や予算の長年に亘る削減の結果ですが、生活経済社会を支える下部構造であるインフラ・ストラクチャーもハードとソフト両面に亘り脆弱化している。上部構造の生活経済社会の進展に応じてそれを支える下部構造のインフラの強化が必要不可欠です。

バランスの取れた上下部構造によって健全な生活経済社会が実現し得る。インフラ強化への投資は当面の経済立て直しのみならず将来世代の基盤・資産となります。先の通常国会で成立した法律に基づき、「民間と連携した新たな交通結節点づくりの推進」や「地域を豊かにする歩行者中心の道路空間の構築」等の活用を期待したい。